

弥栄ダムの「特別防災操作」による治水効果(平成30年7月豪雨)【速報】

弥栄ダムの流域では、7月5日から7月7日にかけて梅雨前線の影響による豪雨により、ダム上流域での流域平均雨量は369mmを記録しました。

弥栄ダムでは、ダムへの流入量が最大で860m³/Sに達し、このうち毎秒約560m³の洪水をダムに貯めました。

この結果、山口県岩国市小瀬の小川津地点(弥栄ダム下流2.5km地点)の水位を約2.4m低減させる効果があったと推定され、危険箇所の浸水を回避することができました。

仮に、ダムが特別防災操作をしていなければ、氾濫により約3.8ha・26戸の浸水被害が発生していたものと推定されます。

今回の洪水のダムへの貯留状況

ダム貯水位(通常時)

ダム貯水位(7日14時時点)



最大流入量
毎秒約860m³

今回出水の最高水位 EL115.21m (7月7日15:10)

貯水位が10.05m上昇(貯留分)

雨の降り始めの水位 EL105.16m (7月5日0:00)

弥栄ダム

最大流入量時
の放流量
毎秒約300m³

特別防災操作による貯留量は約2,122万m³
洪水調節容量のうち34%を用いて貯留

弥栄ダムによる効果(弥栄ダムより2.5km下流小川津地点)



小川津水位観測所付近の状況



約2.4m低減

ダムがなかった場合の被害シミュレーション



弥栄ダムの「特別防災操作」による治水効果(平成30年7月豪雨)【速報】

